宗像

毎月一日発行
発行所
宗像大社
宗像
福岡県宗像郡玄海町
電話 神湊 代表 2 6 番
定価一年送料共 500円

招福の賑わい

―幼稚園児も福は内―

節分祭斎行

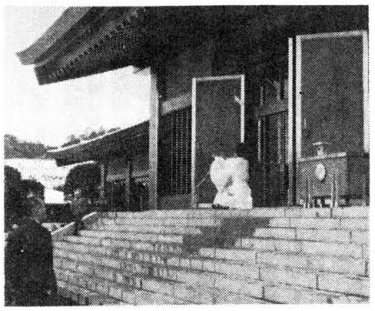
二月四日、曇多の雨に濡れた当社祈願殿に於いて午前十一時から例年通り節分祭が盛大に斎行された。

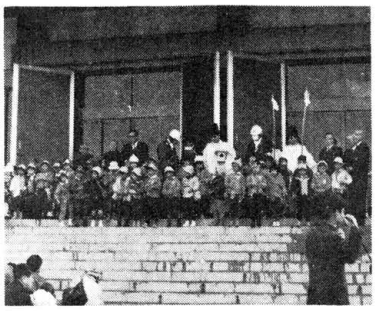
節分の日は立春の前日をいい、大祭が終り、冬籠りの季節が過ぎていよいよ春の仕事に移る時、厄除けのお祓いをして、これから後一年間の無事を祈る祭事が節分祭である。

当日は玄海町の池野幼稚園、玄海幼稚園のよい子等百五十余名、地元綱代、戸畑の「栗組」柴田社長を始めとした篤信者多数の参列があり、斎主久保宮司の祝詞奏上、玉串奉奠に続き、各代表の玉串拝礼があり、最後に幼稚園児代表男女一人づつ神前に進んで小さな手を合せて拝礼する姿がとてもかわいらしかった。

次に祈願殿正面左右二手に分かれた神職二員によって古式ながらの鳴弦の儀式が行われた。

鳴弦は悪魔退散の行事として我国では古くから行われていた儀式で、表鬼門（東北）裏鬼門（南西）から入り来る悪魔を祓う意味の行事である。





鳴弦の儀終了後、祈願殿前に於いて打式が始まった。

神職以下総代、幼稚園児代表、篤信者代表が福豆の入った一升桝を持ち、神職の「福は内、鬼は外」の声を合図に総勢二百数十人の老若男女が入りまじっての和やかな豆撒き、豆ひろいが繰りひろげられた。また、これに宮前の花田商店、赤間の織田商店、コカ・コーラ（株）等より奉納の福物が撒かれ、一層賑わいを増した。

豆撒終了後、宗像警察署々員による幼稚園の交通指導が行われた。祈願殿前の大広場で幼稚園児達は元気いっぱい警察署員の指図に従って交通安全の指導を受けていた。交通指導を終えた幼稚園のよい子たちに福豆のはいった袋、折紙と御神熊の巫女さん達から一人一人に手渡され喜びは最高潮となった。

神具、装束
結婚式場用品
株式会社
会社
井筒
九州店
福岡市中島一丁目三番三号（〒八二三）
電話福岡（九二）六五一九四五六六番
本社
京都市下京区油小路七条北入（〒六〇〇）
電話京都（〇七五）三四一三三四（代）～四番
三五一一三三四・六〇六番

論説　文と武の潮流

高い峯から狭い海狭を見おろして、わが国の長い歴史の変転を考える。歴史の時代的移回の現象は、潮流の干満が急変する際に似て激動が起っている。渦が巻き流が岩を咬む。急流の川下りの小舟にも危険を感ずる。

時代の変動期には文政と武断の渦が巻き起っている。新しい政治体勢が察い社会機構が安定しても、これを作った当時の指導者の理想通りの情勢が無限に続くものではない。上層部の内訌も起った竹外国情勢の影響も受けたりして、変革を必要とする潮流の干満時の現象は避けられなかった。

時代思潮は流水と同じように、いつまでも同じ姿のままでない。時間は人心に変化を与え、その変化は新しい理想を求めて躍動する。わが神話にも古事記や日本書紀の記述の如く、その足あとが読み取れる。

ここでは大化改新以後の変動期の様相と、文と武が如何に衝突して交代したかを取り上げてみたい。概して武力が改革の主役を演じた事蹟は、昨今の海外報道が軍部指導者のクーデターを伝えているのと似ている。

大化改新は蘇我、物部両氏族の伝統勢力を破砕して、新体勢樹立への中大兄皇子の計画と動に端を発した。後に藤原の姓を賜った忠臣鎌足が、文官たる神祇伯を辞退し、弓矢を執って今回の目の将来に備えた。蘇我氏森滅は誤殺の通り成功し大化二年改新の詔が宣布され、諸制は遂次整備された。

鎌足以後の藤原一族は、奈良朝に有能な人物が徐々に業績を挙げて、平安朝では主要な政治的地位は一族が占める観を呈した。おきまりの手だが、他氏族出身の俊才を併序し菅原道真左遷はその代表的事例としてあげられよう。

「この世をばわが世と思う望月の欠けたることのなきを思へば」の道長の歌の如く栄華独占の夢を賛ぼったが、時勢の変動は歌舞音曲の慰楽を許さなくなった。

武士の抬頭である。院の御所に仕える身分も低い平家は、今日のガードマンに過ぎなかったが、保元、平治の両乱ライバル源氏を潰して漸次弓馬の実力を伸張した。平家にとって都合のよいことは、公卿に人物がなくたまに鹿ケ谷の隠謀などの平家排撃の公卿も出たが、平氏にあらずんば人にあらずの権勢には問題でない。他方には延暦寺、興福寺などの僧兵の乱行である。賀茂川の流れと賽の目とは思うようにならぬと後白河法皇を嘆かした僧兵、その都内乱入を防ぐ者は武者であった。

遂に清盛は太政大臣、重盛は内大臣に登用されたが、平家物語の書き出しの如く、奢れる者は久しからず、源氏の復讐的蜂起とされを支援する平家反対の勢力が、壇ノ浦に悲劇の幕を閉じさせた。

武が武に替わる歴史がここに始った。源頼朝は平家興隆と事情も違うが、公卿の文弱の見えない鎌倉に幕府を開き、京都には目付として六波羅探題を置いた。

持明院大覚寺両系の皇位継承の紛争に因って起った南北朝の対立は、足利尊氏に源氏の頭領として第二の鎌倉幕府とも観られる室町時代を創りしめた。然し、北朝擁立を看板とし、なお余喘を持つ南朝勢に備えなければならぬ情況は、幕府を都に置かしめた。

室町幕府は平家全盛時代の徹を踏んだのである。やがて実力なき地方の守護職はその代官や家人に実権を奪われて下剋上の風潮瀰漫、中央は平家のように大官人を真似て武備を失った。

建武中興の躓跌も、室町将軍の流浪も武に敗れた文とも見られる。時代の動乱期は弓矢がものを言った。大楠公父子の誠忠も武力に優る足利勢力を倒して、回天の大業を見ることが出来なかった。

織田信長に次いで豊臣秀吉、共に天下を安んずる政治家ではなかった。殊に秀吉の如きは、智略に長じ運運に恵まれたが、外征などは史家が冷笑する愚挙である。

江戸幕府は公家法度などゆき過ぎはあるが、都に所司代を置いた点、おもむろに対勢力を処分して三百年泰平の基礎を江戸に定めた着眼、家康とその幕僚の暦かれた英智の所産であろう。

明治新時代は世界情勢の影響大きく、政治はじめ各界に傑物が輩出したが、政治に関与しない軍人の鉄則の破れが、平和を恣願される皇室の御憂慮に反して悲しむべき大戦突入となった。

文弱はいけないが武に引きずられる文であってはならない、再び戦争の渦中に飛びこんだではならないと歴史は教えている。

（白星）

建国祭斎行さる

二月十一日、当社本殿に於て、建国祭が厳かに斎行された。

日本書紀によれば、「神武天皇、日向より東征の途につかれ、やがて大和に進軍して平定の大業成り、辛酉年春正月元旦に橿原神宮に於て即位の式を挙げられ、この年を以って天皇の元年とする」旨の記載があり、更に明治六年、太陽暦の採用に伴って、この正月元旦は二月十一日に換算され、爾来、この日を紀元節と定め、国を挙げて盛大な祝賀式が執り行われていたものである。然し、終戦によりこの紀元節は廃止され、その後二十年余に亘る空白の時代が経過したが、この間、世情が安定の声が高まり、また二方、これに対する反対の声も起って、所謂、紀元即論議が華々しく展開された。そして遂に昭和四十二年二月十一日、建国記念日として復活、各地で盛んな奉祝行事が執り行われた。以来、今年で六回目の記念日を迎えた訳であるが、最早、復活当初のあの騒然とした反対の運動も殆んどなく、平穏裡に終始した一日であった。然し、反面この祝日に対する一般の関心は低調で、殊に小、中、高校生の建国の意義についての認識の無さは慨歎に耐えない。これは、学校当局に於て、神話は非科学的で史実に反し、また軍国主義につながる等の理由で、日本建国についての啓蒙教育が行われていないことが大きな原因であろう。神話が史実に基づくものであるか否かの究明は早計に論断は出来ないが、少くとも神話には古代人の理想とロマンが祓れ、殊に国家創建という大業を通して画き出された古代人の不屈剛過の気概、一致結団の協力心、人々を帰服せしむる寛容の精神等、清新高邁なるその影響は、後世の人々に大きな感銘と励ましを与え、ひいては今日の日本民族繁栄の因となっていると言っても過言ではあるまい。

神話を単に科学的立場からのみ検討することに固執せず、それが民族精神形成に寄与した大きな影響力を再認識し、神話を通して民族の誇りと建全な祖国愛の自覚を、特に青少年の間に啓蒙喚起せしむることが現今緊要の課題であるといえよう。

春まつり御案内

本年も左記日程で、当大社春季大祭を斎行致しますので皆様お誘い合せの上御参拝下さいます様御案内申し上げます

記

三月三十一日（金）　午後五時　高宮祭
午後六時　総社宵宮祭

四月一日（土）　午前十一時　大祭
（氏子奉幣、奉納剣）

四月二日（日）　午前十時　大祭
奉納剣道大会等神賑行事が行われます

尚四月二日午前十一時半より宗像護国神社大祭が斎行されます

阿蒙少言

人間は本職以外に、何かを趣味とし道楽として、生活を楽しむ一面がある。相撲道に精進して大関になった元増位山、現在は美保ケ関親方となって後進を指導しているが、油絵の筆をとる奈良好ある相撲で鍛えた根性と研究、それが画面の精神ともなっていると聞く。○医者で小説を書き、古美術に凝って一家を成している人もあり、会社勤めのかたわら華道、茶道に没頭、大成の域にある婦人もある。剣を執って斬ることを学ばず医鬼に仁術を求めて剣客の話題も、ある随筆に読む。人間は仕事だけでは生きてゆけないのも知れない○三千年近くグワム島の洞穴で、孤独に堪えて生き抜いた横井さんの記事が、新聞紙上を賑やかにした。氏は現在の繊維を丹念に工夫して衣服に替えたとか。その情報を知った豊徳の衣料会社が、早速氏を高給で雇いたと希望を出した。単なる宣伝も思えないが、惨めな生活の中にも心を得ずに作られた衣服を高給で変える気もなかろう○過ぎる大風には、起居の必要上まで無聊の慰めから、兵士は乏しい材料を工夫し活用して、色々なものを作った。極端な話はパイオリン製作から太鼓にまで及んだと即ち。行軍路上で大きな缶詰の空缶を、大事そうに一兵士が拾っの意味を見た。野営の味噌汁の釜になっていた○必要が発明を生むと言うが、効果も薄かった体当り爆撃機など、人間を尊重しない机上の計画は、再び考えられてはならない。国は自力で守らねばならないが、他人の生命を粗末にすることは神許さない罪業である○「過去は水に流せ」と簡単に言うが、その文句通りに忘れられるものではない。多くの生物の中に造られた人間、智慧を持つ宿命の人間道に飛び跳躍もなければ、過去を流す大河もない。人生航路の悲喜は波のまにまに。

（白星）

第三六回　宗像大社歌会詠草

毎月十五日ノ切　詠草到着順

久留米　篠田太郎坊
成人式に行きたる長男が胴ボンを家族の眼につく所へ置ける
田　熊　小野かをる
ちゝはゝのいまして日々を妹とあかす語らふかたみに寄して
宮　田　片山　朔子
汗ばむ浮べて泣けみどり児よ汝が生れし窓に冬陽燦う
田　久　立花　勇雄
大いなる苦難の年を事故にあい老いづきて辿る道のけわしき
名　残　竹原　園
たのしみて日記つけたる若き日を思い出すなり古希すぎしいま
田　熊　鷲津かつ代
落日の染めなす雲の薬西このつかのまもわが生を惜し
勝　浦　永島　文子
浦の女が手さびにする蛸壺みなそれぞれに表情をもつ
東　郷　藤崎　辰子
秀先に残す皮一つ四方竹の鋭く伸びて軒端に高し
田　島　吉武　武雄
辿り来し瑞穂のわさに五十年此の價を出湯の里に
曲　天野トモヱ
少しでも励ましになれと月一度孫に書く父言葉短かに
徳　重　石松やす子
はるばると出雲大社に詣で来て我が宗像の神の名を聞く
田　久　小方　実
日本が勝ちて暮るを迎えにくるはかなき夢に生きし橋井氏
戸　畑　藤井　孝子
暖冬の関変に庭の片隅に紅薔薇の花一輪咲きおり
武　丸　原田　リノ
鉄橋に電車の乗りて淀川の流れに赫き夕焼をみる
武　丸　原田まつ代
如月の霜を踏む野風に荒れしを芝生の中に冬草芽ぐり
深　田　中野　節子
縁台に掛けてバス待つ足元に霜もるる日のふと暖かし
宮　田　片山　一
冬の日といへど一日はながからむ井戸掘る人等ラーメンを食う
光　岡　河村　久光
冬の日のいとあたたかなる日なれば菊をたわわに姫に供える
原　町　八波　五月
香りなき造花なれども心をこめて活け終えて今水注を見る
門　司　永島　哲夫
今にしてき妻ありしと思いつゝしめやかに修す三回忌
宗　像　中村　幸
暗き陰見る思いにて応待せし友はその夜ふかぶかりたりとぞ
吉　武　早川　須磨
初詣の老いたるひとに誘われ途迷いてわが任詞を変わす
吉　武　白木うめの
外出する娘に話されし二才児の動きに吾はふりまわされる
福　岡　江崎　琴子
紀元節の想ひにふかりかげたる国旗はためくわが門べのみ
津屋崎　麦野　時雄
荒庭に真蘂をひろげてひなたぼっこ　ほれし星かも花大ぶり
大　井　安部　重郎
見る限り空も地上も模糊として武蔵野原の雪の大景
大　井　安部　静子
名づけたる富士見の窓を開くる朝富士の見えれば嬉もす楽し
津屋崎　菱　花　女
冬晴の玄海今日は静かにて恋の浦曲に寄する白波
戸　畑　田中　桂一
この母は断極の時期を吾に問ふを知らず佇む精霊の娘
戸　畑　田中ハツセ
重苦しき入試の時期の過ぎし今志願者数をさぐりと見る
宮　田　北原　君子
生れ来し男子祝いて赤飯を産院に在る限に奢まむ
津屋崎　占部　由久
古里のみ寺の桜も綻びぬと友の便りにあり て懐し
大　井　吉田ますみ
しみじみとしき思い離れ住む娘を訪ねて帰りゆく朝
武　丸　立石ろせ乃
今年こそその録談の調ふを願いて初詣での雑踏をゆく
吉　留　伊豆　仁江
大伴の恋の郎女嘆かしし名兄の山とも知りて過ぎ来し
福　岡　麻生　初栄
昂ぶりて物言い時もありたりと菊をたわわに姫に供える
原　町　八波　五月
暗き陰見る思いにて応待せし友はその夜ふかぶかりたりとぞ

旧正月祭並大漁祈願祭斎行

海洋神事をより盛大に

—献上若布協議も兼ね初会合—

旧暦正月元日に当る去る二月十五日午前十一時より、沖津宮・辺津宮に於いてそれぞれ恒例の旧正月祭並びに大漁祈願祭が斎行された。

この日郡内七浦の漁師は漁止めの為、沖津宮では外部からの漁師が参拝するにとどまったが、中津宮で、例年通り大島村を中心に各浦からの崇敬者も加わり、神前には海の幸が山の様にお供えされ、漁師の正月を寿ぐと共に、大漁を願う敬虔なる祈りが捧げられた。

祭典後、篤信者に対する表彰がなされ、記念品が贈呈された。

其の後、中津宮斎館に於いて直会の儀が行われ、大島漁業協同組合長始め組合員、沖中両宮奉賛会長以下役員一同と崇敬者で斎館もあふれんばかりで、二次宴の直会といった盛況さであった。

一方、辺津宮では氏子会長以下役員、郡内七浦漁協の組合長もしくは代理と各水難救済会長、崇敬者等が参列し、同時刻より直会が斎行された。

—海洋神事初協議—

祭典後は恒例通り、海洋神事奉賛会の新年会を開催し、本年度秋季大祭の海洋神事を中心に協議され、本年度の海洋神事に関する奉賛行事予定の大要が決定した。

中でも秋の海上神幸をより盛大に行う事が満場一致で可決される一方、例年の経過が説明され、各組合の意見が述べられた。

これによると、本年は暖冬の為、若布の成長が早く、例年より早めの採取となり、それに伴い献上の日も早くなるだろうという事で一致したため、次期協議会を早急に行う事とし、閉会した。

当件に関しては引きつづき二月二十四日に第三回目の献上若布協議会を開催し、この日は、七浦各組合長並参事が出席して、具体的な協議を行った。

これにより天候回復を待ってすぐさま若布採取にかかる事。三月十五日を納期とし、当日までに、献上若を決定し当社に届出る事。また、各浦の船奉仕者に対する表彰者名を同時に届出る事。献上は三月二十三日頃とする事等が決定し閉会した。

すでに享保十七年および天明五年には大飢饉が発生しているが、とくに幕末の天保と安政の旱魃と凶作の結果は、農民の祭儀生活に著しい変革をもたらした。

天保四年および同八年は凶作であったので、翌九年に黒田藩は後三年間次の覚書の実行を命じている。これは各庄屋に郡奉行が命じたものである。

この中でとくに注目される箇条は、伊勢参宮や他国の社寺に参るのを慎むことを命ずるとともに、年始、五節句、盆会などの行事はその村で仕来たりの通り、ただ古例を失わないようしるしばかりで行え、また虫祭、風留（風どめ祭）、牛馬祈祷など天勢が集まって八ついえがましい／飲食をしないようにさせると命じている点である。また三ケ年の間、神事初穂と呼え餅、酒など贈ることや、八朔に籍菓に短冊でのほか果物などつけて送ることを停止せよと命じている。しかし、古くから有りきたりの神祭は神前の供えものなどはこれまで通りに行い、祭座はなるだけ省略して形式だけにせよといっている。農村のひろく衣食住の節減の節減を命じているのであるが、とくに村落共同体の祭儀組織について質素、簡略を指令している点は、祭儀生活の変遷を窺うのに有益材料である。

黒田藩はとくに農民を苛斂誅求しなかったといわれるが、飢饉に米穀を払い下げてやっても、利子をつけて取りあげたといわれるから、徳政を行いたわけではない。

八一石収穫をあげて、その五斗入ケ余を上納した／と教えてくれた故老がある。旱魃や飢饉の惨禍を、ただ農民のさらに因循の踏襲によって打破しようとしたにとどまる。百姓が疎外されていたことは、格別に他の藩と異るわけではない。（天保倹約取締覚書省略）庶民の衣食住の全面に亘ってきびしく統制命令であるが／八一石収穫をあげて、その五斗入ケ余を上納した／と教えてくれた故老がある。旱魃や飢饉の惨禍を、ただ農民のさらに因循の踏襲によって打破しようとしたにとどまる。百姓が疎外されていたことは、格別に他の藩と異るわけではない。（天保倹約取締覚書省略）庶民の衣食住の全面に亘ってきびしく統制命令であるが／八一石収穫をあげて、その五斗入ケ余を上納した／と教えてくれた故老がある。旱魃や飢饉の惨禍を、ただ農民のさらに因循の踏襲によって打破しようとしたにとどまる。百姓が疎外されていたことは、格別に他の藩と異るわけではない。（天保倹約取締覚書省略）庶民の衣食住の全面に亘ってきびしく統制命令であるが／八一石収穫をあげて、その五斗入ケ余を上納した／と教えてくれた故老がある。旱魃や飢饉の惨禍を、ただ農民のさらに因循の踏襲によって打破しようとしたにとどまる。百姓が疎外されていたことは、格別に他の藩と異るわけではない。（天保倹約取締覚書省略）庶民の衣食住の全面に亘っ

郷土　宗像の農耕儀礼 (三)

懐古　——幕末の節約令——

したのである。安政元年（一八五四）おそく同三年の達書は、さらに厳しく農民の禁欲主義と祭儀主義の圧縮とを命じている。（達書省略）

この達書中に有るように、一度寅年細々と相達したけれども、御達書の趣き一向馬耳東風である。それでは上歌むくものであり、上におかせられては御側御不自由をも厭はず省略されている。且また異国船は長崎に再度来り騒用下げてもおとり利子をつけて取りあげ、決して仁政を施したとは思せよ。為に再度申渡すというにあ

る。民心はすでに徳川幕府を離れていたのである。

（編集子注）

上述の文中に、古野清人先生も指摘しておられるように、黒田藩政史の汚点

ことは、むしろおそ過ぎた観があ

る。博多商人の伊藤一族の惨獄は江戸時代全期を通して、他の諸藩の犠牲が語り伝えられている。その他にも治政のミスは少くはなかったであろうが、全土いずこの藩地や幕府直轄地に於いても、出先機関の苛斂誅求、横暴弾圧は封建制の悪弊の特色として挙げられることにちがいない。

太平の兵乱なき世は、恢復すべきは勿論であるが、歴代の将軍にしても藩主にしても、またそれを取り巻く政治担当者としても、常に為民の幸福が政治の要諦と心得たのか、旱魃や飢饉に米穀を払い下げてもおとり利子をつけて取りあげ、決して仁政を施したとは思えない。むしろ黒田藩政史の汚点とされている博多の伊藤小左衛門一族の処刑事件と、宗像の六義人の犠牲が語り伝えられている。その他にも治政のミスは少くはなかったであろうが、全土いずこの藩地や幕府直轄地に於いても、出先機関の苛斂誅求、横暴弾圧は封建制の悪弊の特色として挙げられることにちがいない。

太平の兵乱なき世は、恢復すべきは勿論であるが、歴代の将軍にしても藩主にしても、またそれを取り巻く政治担当者としても、常に為民の幸福が政治の要諦と心得たのか、旱魃や飢饉に米穀を払い下げてもおとり利子をつけて取りあげ、決して仁政を施したとは思えない。むしろ黒田藩政史の汚点とされている博多の伊藤小左衛門一族の処刑事件と、宗像の六義人の犠牲が語り伝えられている。その他にも治政のミスは少くはなかったであろうが、全土いずこの藩地や幕府直轄地に於いても、出先機関の苛斂誅求、横暴弾圧は封建制の悪弊の特色として挙げられることにちがいない。

安川氏は宗像郡大島村出身で、戸畑宗像会の会務にも御活躍されている。

因みに氏の歌歴をみると、昭和四十三年から歌壇に投稿。特選三回を含め四十四回入選されている。

戸畑中央公民館会長の職にある氏は当年四十六才。戸畑区夜宮一の二の一に住んでおられる。

防火演習行わる

一月二十六日は文化財防火デー

一月二十六日は、法隆寺金堂が焼失した日でありこの日を特に〝文化財防火デー〟と定められている。

当社も重文指定の本殿、拝殿をはじめ、国宝指定の沖ノ島出土品を護るために、当社全職員による防火訓練が、玄海町教育委員会と地元消防団の指導のもとに実施された。

訓練は、当日午前十時二十分境内建物に新設された報知機に依り、本殿出火の非常ベルが発鈴、同時に消火ポンプ起動ボタンが押され、全職員が本殿の廻りに設置されている消火栓の放水操作を行った。本殿消火の直後、斎館に出火の発煙灯が点火、自衛消防団のポンプ操作が行われ、心字池の水による放水がなされ無事訓練を終了した。当社では、四十五年より二ケ年計画で、総経費壱千七百六十八円万をかけた国庫補助事業による防災施設が設けられている。

毎日歌壇賞を受賞

—戸畑宗像会の安川氏—

宗像大社歌会々員である戸畑の安川浄生氏の短歌が毎日歌壇賞に選ばれ、去る二十九日の毎日新聞紙上に発表された。

受賞短歌は宗像大社、秋季大祭の神、中両宮神迎の神事である海上神幸（十月一日）を

ご座船をまもる三百の船団が
秋雨のなか旗たててくる

と詠まれたもので、佐藤佐太郎先生の推薦を受けられている。

佐藤先生の評は「漁港の秋祭であろう。たくさんの船が旗をたて、太鼓をたたいて海を進んで来る壮観が思いやられる。〝ご座船をまもる三百の船団〟という上句が確かで強い表現だが、淡白で一見記述的な下句がさらに良い。こういう表現、つまり思わせぶりなところがなく、しかも感情をこめた表現は今日の短歌の一つの志向でもある」と評である。

新入学生対象に

〝宗像大社奨学生選考会議開催さる〟

昭和三十四年皇太子殿下御成婚記念事業の一端として、当天社奨学資金運営委員会が設定された。

昭和三十五年四月二十九日に当天社奨学金第一回目が給付されてより本年で十四回目を迎え受給生は早くも二三八名を数える。

去る二月九日、午前十一時より当天社斎館に於て、昭和四十七年度奨学金受給生選考会議が開催された。

当日は、選考委員である郡内六中学校長（玄海・津屋崎・福間・中央・城山・大島）それに、当天社から葦津権宮司を始め関係職員が出席して選考基準について検討会議は、先ず葦津権宮司の挨拶、次に関係職員より、本年度の支給額（一人当り年額壱万八千円）並に支給人員（各中学校より二名づつの計十二名）に、高校在学期間中三ケ年の奨学金の支給、なお奨学生には返済の義務はない等事務的な説明の後、委員全員に必要書類が配布された。

この奨学金制度は昭和三十五年に第一回目、各校より一名当り年間壱万五千円が支給され、昭和四十一年七各校二名づつと人員が倍増し、前年迄と同額支給され、同四十一年第六回目からは支給額が年間壱万八千円に増額され今日に至っている。運営規程並給付規程を二、三抜粋すれば次の通りである。

一、資金は、当神社の育英事業に協賛するため寄納された篤志家の浄財をもってこれに充て、資金より生ずる果実を奨学金として給付する。

一、奨学金は宗像郡出身にして高等学校又はこれと同等以上の学校に在学する学生々徒に給付する。

一、当神社より給付する奨学金は宗像神社奨学金と称し国家社会の発展に貢献する有為の人材を育成する為その勉学を援助することを目的とする。

復興期成会のあゆみ (三)

（二月号号よりつづく）

昭和三十四年
一月廿五日　沖ノ島出土文化財の所有権譲与陳情書を文化財保護委員会宛提出す。
〃　三月廿六日　責任役員会を辺津宮において開催し、勅祭請願学術調査、社史編纂、文化財収蔵庫建設について協議す。
〃　六月廿七日　宗像神社沖津宮祭祀遺跡出土品、一括重要文化財に指定せる。
〃　十月十一日　責任役員会を辺津宮において開催し勅祭請願、宗像神社奨学金について協議す。
〃　勅祭社請願、社史編纂奨励のため宮司久保輝雄主宰す。
〃　一月廿四日　責任役員会を辺津宮において開催し、勅祭請願、文化財収蔵庫について協議す。
〃　三月五日　三月十五日　宮司久保輝雄、当社の勅祭社御加列請願書を宮内庁宛提出す。
〃　十月　七日　責任役員会を辺津宮において開催し、沖ノ島祭港及び当社の復興事業について協議す。
昭和三十五年
三月　三日　続沖ノ島宗像神社沖津宮祭祀遺跡を宗像神社復興期成会より刊行す。
〃　六月二十日　宗像神社史上巻を復興期成会より刊行す。
〃　三十日　宗像神社沖津宮祭祀遺跡出土品、昭和三十四年六月二十七日指定に続き重要文化財に一括追加指定せる。
八月廿七日　辺津宮参籠殿修理不能となりため撤去す。
十月　六日　当社史編纂委員長小島鉦作来社参拝、十三日まで宗像地方の史料調を査す。
昭和三十六年
二月二十日　辺津宮において責任役員会を開催し、神社隣接の買収問題を協議す。
三月二十日　辺津宮隣接地第三ノ下二、三三五番地の二を境内地として登記を完了す。
〃　廿六日　辺津宮隣接地、第三ノ下二、三三五番地の一、九畝十五歩を境内地と登記を完了す。
〃　五月　一日　辺津宮隣接地下保連一、〇三三番地ノ一、第三ノ下二、三三五番地の一、二、三三五番地の同五の五ケ所を宝物館用地として買収し辺津宮境内地に地目変更す。
〃　六月　二日　文化財共同収蔵庫建設委員会を辺津宮において開催す。
〃　七月　七日　宗像郡重要文化財収蔵庫建設委員会規定を施行す。
〃　七月　七日　辺津宮において文化財収蔵庫建設委員会発会式を挙行す。復興期成会々長代理出光泰亮玄海町々長宗盛平等関係者参列す。
〃　十七日　文化財共同収蔵庫建設に関し、文化財保護委員会より文化財防災施設費補助金交附の決定通知あり。
〃　八月十三日　東京五島美術館において「沖ノ島神宝展覧会」を開催す。
〃　九月十八日　辺津宮境内の水銀灯設備工事完成す。
〃　十一　五日　文化財収蔵庫建設資金募集のため、特定指定寄附金宛帖請書を大蔵大臣宛提出す。
〃　八日　辺津宮隣接地第三ノ下二、三三七番地の一、同二、三四一番地の一、同二、三四〇番地、同二、三四六番地の一を宝物館建設用地として買収し境内地として登記す。
〃　十日　辺津宮隣接地第三ノ下二、三四三番地の一、同二、三四四番地の一、同二、三四一番地の一、同二、三三六番地、同二、三三八番地同二、三四〇番地同二、三四五番地を宝物館建設地として買収し境内用地として登記す。
昭和三十八年
五月　八日　玄海町大字神湊字草崎四八番地、同四八八番地を頓宮建設用地として買収登記す。
〃　六月　一日　辺津宮において宝物館建設委員会を開催す。建設委員長出光泰亮、他関係者二名出席す。
〃　七月三十日　宗像郡護国神社の新殿祭を執行す。
〃　八月廿九日　当社宝物館起工につき奉賛会を執行す。
〃　九月十五日　宝物館杭打ち工事完了す。
〃　十月　一日　玄海町大字神湊字草崎五〇一、五〇二、五〇三番地同四九〇番地同四九四番地を頓宮建設用地として買収登記し　十一月十三日土地表示変更登記を完了の上頓宮境内地とす。
昭和三十九年
四月　七日　当社宝物館落成し、清水建設株式会社より引渡を受く。この日辺津宮において奉告祭を執行す。

大社をめぐる映画次々完成

――テレビ等で放映も真近か――

○「神々の音を求めて」
○「神々はよみがえる」
○「沖ノ島」
―生きている日本の祭り―

昨年の遷宮奉祝祭を機として、宗像大社に関する映画が次々に完成され、テレビで放映されている。いずれもカラー超大作である。

「神々の音を求めて」はNET製作で、昨年十二月十八日、聞名のない音楽会、NET系全国ネットで放映された。

内　容

高千穂の夜神楽から始まり、沖ノ島で発見された五弦の琴、楽器のない時代の音楽とは、絶海の孤島沖ノ島に打ち寄せる波濤の響き、中津宮の天の真名井のせせらぎ、辺津宮の高宮のしじま、中世から始った海上神幸、漁船のエンジンの壮大な響き、夜半に行われた遷宮の行列、雅楽の調べ、行列の沓音、祭りの中にある音楽とはいえない音の断続、そこにも音楽の源泉があったと磯敏郎氏が解説している。

「神々はよみがえる」は宗像大社復興期成会が企画し、RKB映画が製作、この程完成した。テレビ放映は未定である。

内　容

辺津宮、中津宮、沖津宮を鳥瞰して、沖ノ島の四季、植物、自然、沖ノ島学術調査の模様、三笠宮殿下御来島。主要出土品紹介、辺津宮遷宮奉祝祭表千家家元献茶会、井上八千代さんの奉納舞等が収められている。

ナレーションの一部

「新しい装いの中に、古代の神秘を問答いかした本殿、祈願殿が完成しました。

宗像大神を崇敬する数多い人々の願いと、国の内外を問わず寄せられた多額の浄財が二十世紀のいまに雄々しく古代を再現させて、日本人の魂のよりどころを明らかに示したといえましょう」

「沖ノ島」
―生きている日本の祭り―

はTNC（西日本テレビ）製作で約三年の歳月をかけている。テレビ放映は来る三月十八日（土）午後四時からフジテレビ系列でTNCをキーステーションとして出光興産提供で同時放映される。放映するネット局は次の通り

北海道文化放送（実験放送中）
仙台テレビ　関西テレビ
東海テレビ　テレビ西日本
佐賀テレビ

この企画は、TNCが民放連の放送番組センターの協賛を得て、沖ノ島の学術調査開始と共に撮影を始め昨年で終了し、この程構成、編集を終了した。

内　容

絶海の孤島沖ノ島の鳥瞰、しら浪の八重折りさへに　くすしくも　います神かも沖ノ御島は

沖ノ島奥神の島といわれているのは何故か、宗像大社の由緒をひもとくように物語りが展開する。沖、中、辺津宮の紹介。神剣の扁額、

「歴代の皇室を助け、歴代の皇室に奈られたこの御神勅によって鎮まりになった宗像の神々は別の名を「道主貴」あらゆる「道」の祖神として広く国民のふみ行うべき道を示され、人の和をさとされ、伊勢神宮に対して「裏伊勢」と呼ぶ信仰を伝えてきました」

空から眺める宮遷現、古代の祭り、大島の沖津宮遷拝所、静かな日と荒れた日の沖ノ島の対比。

沖ノ島のタブーについて、沖ノ島の亜熱帯植物群、オオミズナギ鳥の生態、岩礁、半露天、平場の祭祀遺跡、学術調査団の記録、奈良三彩の発掘状況、楽然と輝く金銅竜頭、発掘品の数々、

秋の大祭の神迎え、海上神幸等が収録されている。

以上三本いずれもカラーで、時間は二十八分にまとめられ、いつでもテレビの三十分番組で放映することができる。当社でもプリントを保存し、各種の会合に上映している。

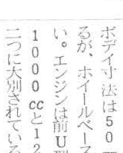
× × × ×

話題の新車をみる（五九）

パブリカの巻

国民車と云う題名のもとに出発し安価にしてしかも新車を持ち度いと云う層を満足させる目的をもって開発された軽自動車は一時は自動車普及の牽引となり、当時はカミナリ族と云われたオートバイ愛用の若い層を吸収して第一次、第二次と黄金時代を築いて来た所需要層が固定し急激なる延びが期待出来ないとなると内装を豪華にしたり、馬力の向上を計ったり、ヤング向けのGTカーとか、はてはハードトップとか、早目のモデルチェンジとか、空冷エンジンから水冷エンジンに切り換えるとか、あらゆる努力により、第三期黄金時代を築き、一社一車種だけで二万台以上の売り上げを誇る程の成長を遂げたのである。

これにより打撃を受けたのが1000cc級の車であろう。何しろ相手は車検はないし、安価とくるとパブリカにしろ、チェリーにしろ、当初は国内向け生産一万台を目標に造られた車であった訳だが、それ程の過去最高の売り上げを見ると、トヨタ自動車の調査によれば、パブリカの過去最高は昭和四十四年五月の7558台、チェリーは四十六年十一月の4289台である。差はやはり車検と云う一つの壁によるものであり、これを是正させるには内装を豪華にする等の努力が必要となり、国民車的性格を持って出発した安価なる車は次第にその姿を消そうとしておるのである。



今回はパブリカのモデルチェンジ車について紹介したい。この車は今年1月24日にチェンジされ、同日から売り出しを開始した。往年の小さく安価な性格から抜け出し、カローラ発売当時のような性格にイメージアップされ若者向けのイメージを強調しているのである。

購売層の獲得をめざしている。エンジンは水冷直列4気筒OHV、1200ccの最高出力77ps／6600rpm最大トルク9．6kgm／4600rpmである。

新春恒例行事

老いも若きもヨーイドン!!

宗像郡陸協、宗像体協、西日本新聞社などを主催の第十五回宗像マラソン大会は二十三日午前十時より当社祈願殿前を出発、精神年前九時、祈願殿前に整列した参加者は神官の御祓を受け、精神の統一を計る。

午前十時、スタートラインを飛び出した各選手、人生の縮少とも言えるマラソンコースと闘う。

粕屋郡須恵町で燃料商を営む楠岡平八郎氏は年五十六才にも拘らず元気に二万メートルに出場、沿道の拍手をさらい、最後になったものの好タイムでゴールイン、関係者を驚かせ、盛んな拍手と共に敢闘賞が贈られた。

今年新たに設けられた西日本新聞社の最高タイム賞が五千と二万に贈られ、五千メートルは福岡教育大の吉田孝二選手が一万メートルは三菱化成の橋本豊明選手がそれぞれ獲得した。この日出場した三人の五十歳代は「今日文化と生活向上によって人間は楽しみだけを考えて自分を苦しめる、鍛えるといった根性がはなはだしく少なくなってきています。

瞬間的な体力はあっても持続力がなければ人生の長いコースを完走することは至極困難だと思います。私も二、三年前までは、どうも身体の調子が悪いとか、暇がでたとか故障が多かったですよ。

その意味でもマラソンは衰えつつある体力と精神力を養うには最高のスポーツです。これからも続く限り走り込みたい。若い人にも染だけを考える事自分を試す意味でも大いに運動して貰いたい。」と意をはずませながらも兄に話していた。又目を引いたのは福岡教育大から出場した二人の女性ランナーで途中事故もなく完走し心意気を見せた。なお各種目の成績は次のとおり。

写真上は祈願殿前スタートラインを飛びだした各選手。
写真左は一万㍍を完走した楠岡平八郎氏。

【五千㍍、中学の部】①北町善郎（春日）16分31秒②豊田正義（新宮）16分34秒③吉住康夫（福吉）16分36秒④八谷宏司（春日）⑤相良博幸（相屋）

【同高校の部】①元山潤次郎（大濠）15分25秒②山田三喜男（同）15分40秒③光安秀生（同）15分46秒④吉田章（鞍手）⑤野見山雅夫（大濠）

【同星年団の部】①宇野本英雄（福間）16分58秒②西村敏明（同）17分12秒③斧瀬博志（宗像）17分30秒④勝野政治（福間）⑤花田茂治（宗像）

【同一般、大学の部】①古田孝二（福岡教大）15分24秒②肘井義昭（戸畑）15分27秒③中江義則（同）15分44秒④蔵野和幸（同）⑤平松茂（福岡教育大）

【二万㍍の部】①橋本豊明（三菱化成）30分58秒②目野勝元（北九州陸協）31分12秒③安永正義（飯塚商）31分20秒④大浜次郎（門司工）⑤入江利昭（大濠）

〔お知らせ〕

「沖ノ島II」概報発刊

宗像大社沖津宮遺跡の昭和四十五年度調査概報が、この程調査隊の承認を得て発刊された。今度の調査では、なんと云っても奈良三彩金銅製鐵機具類等の出土に合せ遺跡全体の時代的経過の確認ができたことであろう。これ等は本文五十ページ写真六十ページによって報告されている。

頒布価格　一、二〇〇円
送　料　二〇〇円

福岡県宗像郡玄海町
宗像大社文化財管理事務局

昭和三十九年　五月十三日　宝物館敷地埋立工事開始につき辺津宮において奉賽祭を執行す、この日、陸上自衛隊第四施設大隊作業を開始。

〃　十六日　宝物館敷地埋立工事完了につき辺津宮において奉賽祭を執行す。この日、陸上自衛隊第四施設大隊より造成土地の引渡を受ク。

〃　六月廿八日　宝物館開館式挙行、辺津宮社務所増築工事開始につき報告祭を執行す。

〃　七月十五日　辺津宮社務所の増築工事完了。

〃　八月十一日　辺津宮社務所の増築工事を開始。

〃　九月　十日　沖津宮表参道大鳥居修繕作業を開始。

〃　十六日　沖津宮境内駐車場拡張工事に伴ない、沖津宮表参道大鳥居修繕作業を開始。

〃　十月　三日　沖津宮境内根葺替工事に着手す。

〃　十一月二十日　文化財管理事務局の建設工事に着手す。

〃　宝物館落成にともない沖津宮神宝等、文化財保護委員会より返却せられ同館に搬入せらる。

〃　〃　沖津宮境内根葺替工事完了につき本殿遷座祭を執行す。

〃　〃　廿九日　沖津宮開設につき奉賛会を執行し館長に出光泰亮就任す。

〃　十二月十一日　文化財管理事務局の建設工事完了す。

昭和四十年　一月　一日　本日より宝物館を一般公開す。

〃　四月　五日　辺津宮境内駐車場拡張工事ともない心字池前に鎮座の末社松尾神社を収蔵庫側に遷座し祭典を執行す。

〃　七月　八日　当社史編纂委員長小島鉦作・同委員梅田義彦来社参拝十四日まで福岡、佐賀両県の史料調査を行う。

〃　八月二十日　宗像郡護国神社の管理を当社に移し境外末社として取扱う。

〃　十二月七日　宗像神社史下巻を復興期成会より刊行す。

昭和四十一年　二月　一日　毎月一日月次祭を勅祭請願達成祈願祭としこの日より執行す。

〃　二月　九日　第一回勅祭請願会議を出光興産株式会社本社役員室において開催す。

〃　四月　七日　復興期成会長出光佐三、出光興産株式会社本社役員室において富司久保輝雄以下当社管理職を交え復興計画案につき懇談し斎館において富司久保輝雄以下当社管理職を交え復興計画案につき懇談す。

昭和四十二年　五月十三日　辺津宮において責任役員会を開催し四十一年度歳入歳出報告を行い勅祭運動について協議す。

〃　六月十五日　辺津宮本殿棟札九枚、天正六年戊寅六月朔日記載のもの四枚慶長元文元年七月記載のもの一枚普賛宮政十一己未年九月記載のもの一枚、修理文政三年辰二月記載のもの二枚それぞれ重要文化財に追加指定せらる。

〃　七月廿三日　復興計画用地の所有権者を辺津宮に招き復興計画案並に土地選定の理由を説明の上協力を要請す。

〃　九月　一日　復興計画に伴う用地買収のため用地買収委員を選考し委嘱を発送す。

昭和四十二年十一月十八日　勅祭御加列請願並に復興計画協力会の結成を辺津宮において挙行し復興事業の推進を決議す。

〃　十二月二日　富司久保輝雄、当社の勅祭社御加列請願書を宮内庁長官佐美毅宛提出す。

昭和四十三年　三月十四日　文化庁文化財保護部文化財専門審議会第三分科会において当社三宮境内地を国の史蹟に指定する旨答申あり。

〃　七月十二日　辺津宮において氏子総会を開催し、郡内の復興資金募集運動推進を決議す。

〃　〃　二十日　当社復興計画推進のため、復興期成会より冊子を刊行す。

〃　八月　六日　東京出光美術館において「宗像大社国宝展」を開催す。文化庁長官今日出海来館す。

〃　十二日　当社高宮斎場隣接地七殿二、二三三番地山林一畝十二歩同二、二三三番地山林六畝六歩、同二、二四〇番地、山林壱畝歩を医王院より高宮用地として買収し、十月十八日土地表示の変更高宮斎場境内地の登記を行う。

〃　〃　沖ノ島学術調査のため宗像神社宝物館々長出光泰亮九州大学助教授岡崎敬、富司久保輝雄二行七名渡島す。

昭和四十三年　八月廿七日　当社宝物館設計者東京在住の伊藤要太郎を復興事業設計監督に決定す。

〃　九月廿四日　大阪市立博物館において開催中の「宗像大社国宝展」終了す。

昭和四十四年　三月　一日　重要文化財辺津宮本殿、拝殿解体修理国庫補助金交付申請書を文化庁長官今日出海宛提出す。

〃　十一月二十日

（次号につづく）

宗像大社歌会
俳句作品集（二〇）

嫁がせし後の広さや各座敷　門司　永島　哲夫
バラの花反りつゝ開く小春日に　福岡　麻生　初栄
お七夜の孫の名飾る寒の梅　東京　小浦　太平
書き初めや父の遺愛の唐硯　平等寺　中野　きみ
寒雀拾ったる飯にはや集う　津屋崎　菱花女
東郷　有吉　春子
冬枯野鵜釣るとうき見瞠めし日　武丸　野中　和子
猟犬の弾丸のごと尾翻よきる　吉留　伊豆　湧泉
みゝづくの三日遇うや宮の森　門司　久保　晴海
海は美し宗像三社神の春　大井　吉田ますみ
野火燃えて夕暮るゝ野の淋しさよ　福岡　入江　柳江
むろうさに蛇の目をひらひら春時雨　大井　安部　重郎
美しはかなきものに春の雪　久留米　篠田太郎坊
豆撒きの声たえ雪の門とざす　京都　大島土竜子
年の豆髪に撒り袂変し

沖ノ島
宗像神社沖津宮祭祀遺跡
昭和四十四年度調査報告

四・五号遺跡

五号遺跡は四号遺跡（御金蔵）のB岩、六号遺跡のC岩、さらにC岩の大石の三岩石にかこまれた長方形の平坦部にいとまれたもので、C岩が奥壁となり、平坦部の上を庇状に覆っている。奥行約八、一m、幅（南北）約五、二mをはかる。

五号遺跡は六号遺跡より低く六号側の穴を通して上からの土砂の堆積等考えられるので遺物の中には六号遺跡からの流れこみを考えておく必要がある。地面上には特に施設は認められないが、須恵器が多量に発見され、石が散れていたようである。

遺物は平坦部全面に散らばり、須恵器を除いて原位置をとどめているものは少ない。金銅製小形細頸壺・同小杏は六号遺跡に通ずる穴の近くにあり六号遺跡からの流入かも知れない。須恵器は東南部に一括纏まっており、出土の状況から当時の配列状況を復原することができる。

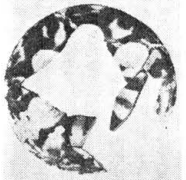
金銅製、銅製、鉄製の形代は破片となって岩陰の全面に散在していた。滑石製の平玉・白玉も同様に散布した状態で出土している。

五号遺跡からは前に述べたように特筆すべき発見がある。それは金銅製龍頭であって、四月の予備調査の際、B岩のこば、中央よりわずか人口よりの所で一対発見されたのである。龍頭は向い合ったように置かれていたが、十月の調査の際に再び原位置に置き附近を調べたが、これに附属すると考えられるものは発見されなかった。しかし近くから金銅製品が多量に出土しているので、或いはこの中に附属するものがあるかも知れず、これは今後の研究に待ちたい。

次いで重要なのは唐三彩の発見であろう。これは五号遺跡の西側入口附近より現場近くまで小片になって散乱しており、計十八片を採集することができた。この十八片は接合すると径九、六cmの長頸花瓶の口辺部となるが、前回の調査時に六号遺跡で発見された四片が約二〇mも離れ別々の岩蔭にあることは理解に苦しむところがある。

金銅製龍頭と唐三彩は別項に杉村晃造・小山富士夫両氏の解説があるのでそれによられたい。

五号遺跡出土の土師器・須恵器は六号遺跡のものと近似した形式である。この時期の祭祀の遺物が主体をなすものと思われるが、流れこみと考えられるものもあり、何回かの祭祀が考えられる。なお五号と六号を区画する岩の上面四方から鞆形石が発見されたことは注目せられる。また明らかに中世以降と考えられる鉄製鍔口・鉄製三叉鉾、銅銭などがあり、古代の祭祀の場に中世以降になっても奉献が行なわれていることが認められる。



五　正三位前遺跡

船着場より二〇m登ると社務所前の平坦地に出る。その南端に正三位社の石祠が鎮座している。この祠は島の基盤をなす中世代居板岩層の七七堆積した崩石土の上に構えられたもので、その南側は海蝕によって絶壁をなしており、波風にさらされているため絶対徐々に崩壊している。たまたまこの崩壊しつつある崖面上端に土師器の小形丸底形土鉄鉢が露出している。

この遺跡を発掘すれば次回の調査までには崩落し去ってしまう危険があったので応急調査を行なった。この遺構は特殊埋蔵遺跡で、旧地表から三〇cmばかり掘り下げた土壇を設け、その中に鉄鉢を埋納したものであった。土壇の大きさは壁面を十分確認することができなかった。約七〇cm程度の径をもつ円形土壇であったらしい。すでに土壇の三分の一近くは崩壊しているようで、また土壇の縁辺も崩れているので蓋石が壇内に沈下していた。壇内には撥形の鉄鉢置かれ、一部はすでに割れ落ちている。長さは一八ー二〇cmくらいである。また一枚の鉄鉢は二〇cmほどはなれた壇内に平たく置かれており計九枚となった。

壇内にはこのほかに鉄刀子、鉄片、土器小形丸底二個体分があった。土壇は島の土方に露出している石英粒岩の割石を三枚寄せて蓋石として、蓋の周辺をさらに割石を集積していた。土壇の中央は蓋石がなく、すでに崩落したと思われ、当初はおそらく四ー五枚の蓋石をかぶせていたのであろう。また土壇のすぐそばの崖面には土師器小形丸二個が、ややずれ落ちた状態で発見された。おそらく土壇の蓋石七土抜掘されたものであったろう。蓋石の間には小さな礎石一個が詰められていた。これまで鉄素材としての鉄鉢は一六号遺跡から二例（一つは長さ四三cmで一つは三一cmでいずれも保存要注の発見があり、九州本土では福岡県糸島郡御木松原遺跡に類似品の報告があるが、極めて珍しい。

総内及び南鮮の古墳にはかなりの出土例が報告されており一般に四ー五世紀代ー大和政権の半島進出にともなって半島南部から鉄の素材としてもたらされたものと云われているが、そうであるならば沖ノ島の海上交通上の位置と、奉献されているので、この遺跡が異っていることが注意されるのである。

（つづく）

出光佐三一問一答シーリズ ⑥⑥
働く人の資本主義

バウマン　私はチェコで『モダン・マネジメント』という経済誌の編集長をしておりますので、経営の任にある若の考え方に、ささやかではあるますが影響力を持っております。そのため、こうして会長からいろいろとお話をうかがえばうかがうほど、私はチェコの責任あるひとの考え方に賛するところが多いので、私個人にとり大変貴重なことなのです。

出光　私もいうことをそういうふうにとっていただければ、これは私にとって近来にない大きな出来事です。

この問、ソ連のバイバコフ副首相と会って話をしたときも、よく理解してくれ、私のいうことに異議はなかったようです。そういう方とフリートーキングをやっていけば世界は平和になりますがね。

そこで先の話の続きですが、宗教史学会の人たちと互譲互助について話をしたら、みなが「譲るということは権利の放棄で　邪道であり、絶対に許せない」というんです。はじめはフランスの学者が非常に攻撃してきました。ついでほかの人たちも顔色を変えて攻撃してきました。私はビックリしましたね。

私の以前の事務所は歌舞伎座の横にあったが、その道路にゴー・ストップの信号があった。そこでそのゴー・ストップをさして「諸君が権利を主張して車を乗り入れ、おれが先だ、おれが先だと主張したために車は動かなくなった。そこで赤ランプがでて、お譲りなさいといわれて譲られ、つぎに青いランプがついて、さあおいでなさいと助けられている。このように権利思想の行き詰まりを日本の互譲互助のあり方で解決といったらどうだ」といってやまった。（笑）

バウマン　それはよいとえですね。それならだれでもわかります。（笑）

出光　権利思想の行き詰まりを解決しておるのが徳のあり方です。これが世界に広まれば、世界は平和になります。いまのベトナム和平のパリ会談でも、赤ランプが一度、青ランプが一度ではそれで解決です。ひとつ赤ランプと青ランプを寄付することにしましょうか。（笑）

バウマン　どうかぜひそうしてください。（笑）

出光　そういう簡単なことです。（笑）

それではバウマンさん、こんどは私のほうから徳というものと、権利思想というものが、どうしてできたかをお聞きしたいのですが。

バウマン　ちょっとわかりません。

出光　これは簡単なことです。日本では二、三千年前から祖先が無欲であった。無欲といって人間だからまったく欲がないということはないが、お互いに仲よくということを実行してきた。外国はそれが無欲ということです。外国は我欲です。『マルクスが日本に生まれていたら』でお読みのように外国の祖先は我欲の国民大衆を征服、搾取した。これがエンペラー、キング、皇帝、国王のあり方です。我欲のためにいい者も悪いも「征服」したということです。しかし、日本の祖先は無欲であるから、悪い者はほうされたが、いい者は奨励されるという「平定」のあり方です。それだけの違いです。無欲が白なら我欲は黒でしょう。白と黒の違いがはっきりと数千年流れてきているということです。

バウマン　三千年前ではなしに三百年前には日本でも外国と同じように、征服、闘争が行なわれていたように思いますが。

出光　それは足利幕府や徳川幕府がやったことであって、外国のエンペラー、キングのあり方と同じです。

これを理屈抜きで事実で証明しているのが、エンペラー、キングなどで、大衆を搾取して豪奢の限りを尽くしておる。昔の中国をみてごらんなさい。帝王の皇帝は豪奢な生活をやっています。ヨーロッパだって、キング、エンペラーは金殿玉楼に住んでおるでしょう。そして、いつ外から攻められるかわからないので、城の中にある。ところが日本の皇室は、京都に行かれてご覧になったと思いますが、平地の御所で質素に暮らしておられるでしょう。どうして無防備の平地に三千年もおられるかということです。その事実をどう解釈するかということです。

反対に、これを裏からいえば、日本の皇室がなければ、徳川家康や足利尊氏はエンペラー、キングであり、征服者です。これは事実であるから理屈ひっくり返すわけにはいかない。この日本と外国の相違が偶然に国民大衆の装飾に表われていると思います。外国ではいつ征服されるかわからない。生命、財産は常に危険にさらされている。だからみな財産を身体につけておる。その最もよいのが金の延べ棒を巻いている姿でしょう。あらゆる財産を身につけていないと心配なんです。ところが日本では、皇室が中心におられて国民を保護されているから国民は生命、財産の危険を感じていない。それで財産を身につけて歩いて入はいないですね。現在は違ってきましたがね。（笑）

それからもう一つ、こういうことがいえる。仏教というのはインド哲学でしょう。儒教、道教というのは支那哲学でしょう。これらは征服の国では発達しておりませんね。お釈迦さんのつぎの時代には、もう仏教はほうんでおる。中国大陸にきても発達していない。そして日本にきてはじめて発達をしている。ところが日本人でも錯覚している人がいるが、日本の伝統が仏教や儒教によってできておると思うのは間違いです。日本に仏教や儒教が渡ってきたときは、日本という国ができて千年以上たっていたときです。そこにはすでに仏教の哲学は無我、無欲、それから儒教、道教の哲学を実行していた土地があった。哲学の目指すものを実践していた土地があった。理屈も何もない、黙って実践しておった。この土地ならばわれわれが根をおろしてよいというので、仏教や儒教の根をおろしたということです。仏教、儒教が渡来するよりも千年前には、日本はどうなっておったかというと、ずっと天皇制がつづいておる。そして、今のようにやかましくいわずに、黙って哲学の目指すものを実行しておったということです。そこに仏教、儒教がはいってきて、そしてその実体に対して互譲互助とか、義理人情とか、無我無私ということを当てはめたりして、哲学実行の土地を耕し、肥料を与え、硬々相助けて発達したんです。そして徳ということも説明ができるようになったんですが、その実体は教学会のもう千年以上前からあったということです。

バウマン　わかりました。私の先の意見を訂正いたします。（笑）

出光　この無欲の皇室のもとに、あるときには発言噂をする征服者が出たけれども、皇室と国民とのつながりを断つことはできなかった。言いかえると、日本の国民は自分の生命、財産については安心しておれたということです。

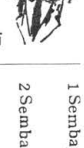
ここにおもしろい話がありますが。私は戦時中、支那に行ったことがある。そのとき向こうの大官たちと話しているときに、日本の新聞記者が同席していて、話を聞いていた。そして支那の新聞記者が、私にこういうことを質問したんです。

「日本は支那の弟子じゃないか。哲学とか芸術、教育、すべての点において、日本は支那の弟子のように思うが、弟子のくせして先生に向かって弓を引くのはけしからんじゃないか」というわけです。（笑）

（つづく）

宗像藪庵先生百話
デンマー
南方華かなりし頃
つづき

宗像太郎坊



中流以上になるとシャワーがあって頭から洗う。この水浴は汗を流して綺麗にするばかりでなく、宗教上の規制もなっている。ネシアン人の大部分が信仰するイスラム教には五戒があり、第一が清浄（タハラ）でつぎは祈禱礼拝（サラト）である。清浄とは儀式的沐浴で、この沐浴はモーゼの十戒よりきている。小グハットは顔・手・腕を洗うだけで清浄の目的を達する事が出来、大グハットは全身の水浴によって浄化する。ただし水浴前にニイアト（Niiat）を唱えなければ無効であるという。そして次ぎの祈禱礼拝は一日五回やるが、普通ネシア語で、スンバヤン（Sembayang）となえる。これを始める時は、木鐘を鳴らして知らされる。

1 Sembayang lohor　正午の時
2 Sembayang asar　午後3時頃
3 Sembayang maghrib　太陽の沈む前
4 Sembayang isha　午後8時頃
5 Sembayang suboh　朝の出時頃、太陽時

水浴をすゝ、洗濯の行き届いた服を着て、大樹の陰で遠かメッカの方に向って、両手を上げてはひれ伏して礼拝している姿は、自然に溶け込んだ一幅の絵であり、天地悠久の姿でもある。もはや野蛮であるとか無智であるとかいう感じはしない。ネシア人が川に浸って洗濯している時は、ついでに躰を洗ったり口を漱だりしている。印度人を見ていると、飲んでいる者もある。マンデーの河として有名なのは、ジャワのジャカルタの河である。ここの水浴風景はよく写真に掲載されているが、道路わきの濁った河に、サロンのまま浸って洗濯したり、水浴したりしているが上流では放尿したり脱糞したりしている者がいて、糞が海月のようにぷかぷかと流れてきて、女の脇の下をくすぐって流れる。どうしてこんな汚い水に平気で浸っているかと問えば、イスラム教で「流れる水は神聖なり」との教えを信じているからであるという。スカルノ政権の首都で、このような姿が見られることは民族の恥であると、某ネシア人医師がいったそうであるが、この河水を培養すると赤痢菌が出るそうである。

ジャワのジョクジャ王城のうちに「水城」と呼ばれるタマン・サリーの廃墟がある。これはマタラム王国の全盛期に、マンコ・ブミと呼ばれたポルトガル人が建てた伝えられる「夢の宮殿」である。だがこの「水宿の城」も一八六七年の大地震・昔の面影はほとんどなくなってしまった。ジャワは昔から「マンデー島」と外人からいわれていたくらい何回も水浴する。タマン・サリーは緑の樹樹に覆われた運河の花咲く夢の水城であり、時の王妃が美女数十人を遊ばせた台も、濃い緑に青白く光って見える。地下の石室は美女たちが浴後、憩いの涼をとった寝室である。ひときわ厳重な囲いをめぐらした運河の池は、寵妃と妖しく戯れた王侯専用の浴場であった。水城といえば印度の「デリー城」も挙げねばなるまい。旧デリー市の中央にあるラホル門を入って行くと忽ちこの城の光景に目を奪われる。

（つづく）

× × × ×